

第1回教育セミナー 実績報告書

開催日時：平成26年2月16日(日) 9:30～12:30

会場：東京グリーンパレス(千代田区二番町)

1. 開会式



＜理事長挨拶＞(以下、要旨)

子どもたちの笑顔に“いちばん”というものはないと思います。笑顔に優劣は付けられません。一人ひとりの子どもたちのかけがえのない笑顔を引き出すというミッションをもって、私たちのNPO法人は設立されました。子どもたちにとって、時間がかかっても、1つ1つの学びを“確かに”、“もらすことなく”理解していくことが大切なのだと思います。なぜなら、その学びが子どもたち自身の将来につながっていくからです。私たち大人の教え方ではなくて、子どもたち一人ひとりの多様な学び方に注目して、支援していかなければならないと思います。

2. 【第一部】特別支援が必要な子どもの「読み書き力」を高める支援システム大公開！

講師：小池敏英 東京学芸大学教授

＜小池教授の講演＞

特別支援は、先生方が子どもたちに語りかける部分が大切なところ。子どもたちに何を目標にして、どういうところまで努力したらよいのかということ伝えることです。そして、その子どもの努力を認めてあげることによって、ずいぶん子どもたちの困り感は変わってくるのです。たかだか「読み書き」といいますが、読み書きする行為そのものよりも、そこに書かれている内容の理解が大切であることを私たちは確認していく必要があると思います。ワーキングメモリーの弱い子どもたちとつき合っていくには、指導にとっての見通しを先生方がもっていることが必要だと思います。



そして、そういう対象児童に適切な教材を当てていくことです。特段、「ひらがなの読み」はこれからのすべての基本になっていくのでとても大切です。教材の工夫として、視覚イメージとの組みあわせが効果的です。また、授業の前に、教科書に出てくるひらがな単語に馴染んでおくと、みんなと同じように授業に参加できます。「読む」ための教材って世の中にないので、困難克服のシステムとして、教科書準拠の教材を提供できたら良いと考えています。NPO法人スマイル・プラネットでは、4～5月から、認知の特性で選べる教科書準拠のプリント教材を、Webサイトから出力できるシステムを提供する予定です。

3. 【第二部】小学校における「キャリア教育」とは……。

講師：藤田晃之 筑波大学教授



<藤田教授の講演>

キャリア教育は、学習指導要領において、「学習意欲の向上や学習習慣の確立」と明確な関連性があると明示されていることを、まず確認したいと思います。そして、キャリア教育によって、「今の学びは将来につながっていて、社会を支えるし、私たち自身も支えてくれるんだ」と子どもたち自身が腹落ち感を伴って実感できることが重要ではないかと思えます。

国際学力調査において、日本の生徒の学力は上位を占めています。が、「数学・理科の大切や意義に関する意識」は、参加国中最低です。主体的に学習に取り組む態度(=学習意欲)が世界最低レベルであるということを確認しておく必要があります。この部分をキャリア教育は期待されています。

子どもたちが壁をぶち破り、自分の夢を実現するには3つの方法があります。

方法1：やり続ける！

方法2：自分の中の方向性に気づく

方法3：仕事どうしの「ネットワーク」を知る

特に、方法1が不可能になる場合が多くあります。その時に、それだけでなく、方法2・3を知っているか知らないかがとても大切です。1つの職業にこだわるのではなく、なぜになりたいのか、どんな人になりたいのかという自分の心の声によく耳を傾け、「自分らしさ」を見つめ直すことが大切です。すると、心の声を活かす職業がたくさんあることに気づくでしょう。なりたい仕事に関わっているネットワークも自分を活かせる場所であることに気づくでしょう。



子どもたちは大人になり、知識基盤社会の中で役割を果たす過程で、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。そういう力を小学校教育の中で日々培っているのです。その培っているということが子どもたちの中に確かに伝わっていることが重要です。今の学びを自分の未来へつなぐ方法は、たくさんあります。小学校では既存の教育活動の中にキャリア教育と関連する内容が数多くあります。それらをキャリア教育の視点を意識して取り組むことが大切です。

今の学びを将来につないでいくという重要性をお話しましたが、NPO 法人スマイル・プラネットでは、先生向けの教育情報誌の発行・Web 掲載を予定しています。その中で、各教科の中で、具体的な単元を例に挙げながら、手軽に実践できるキャリア教育の視点を紹介していきます。ワークシートや資料のダウンロードや、実践してみた先生からの事例記録などの紹介も検討しています。

4. 【第三部】“学びの基礎・基本” 国語・算数教育への新しいアプローチ！

講師：坪田耕三 青山学院大学教授
水戸部修治 文部科学省教科調査官
司会：渡辺秀貴 国立市教育委員会



<坪田教授 算数教育の課題>

授業を見にいくと、算数の授業の目標として、「早く」「確実に」「正確に」(頭文字をとって“ハカセの決まり”)と標榜されている授業を見ますが、そういうことを子どもに強いるような授業にしてほしくはありません。算数の本当の面白さは、そうではないところにあると思うからです。たとえ時間がかかろうとも自分の中で答えを見いだしたときの喜びは、ほかのどんなご褒美にも代え難いものがあると思います。

今までの授業は、知識の伝達であったと思います。そうではなくて、教室で子どもたちが発見するような、知識を自分で作り上げていくような授業を求めていくことが大事です。



<水戸部調査官 国語教育の課題>

学力調査の質問紙で「どの教科の勉強が好きですか」と調査しているが、国語は他教科に比べ、昔から人気がありません。藤田先生の話にもあったように、国語では、学びを言語生活につなぐような意識の授業が行われにくかった実態があるのではないのでしょうか。また、小池先生の話にもあった、特別な支援が必要な子どもたちにも対応できるような国語の授業になっていなかったという反省もあります。

これまで定番だった授業に言語活動を単元を貫いて位置づけることによって、子どもたちが見通しをもって主体的に思考・判断できるような授業が成立する可能性があります。



<司会：渡辺秀貴先生>

お二人のカリスマ先生のご指摘の共通点は、教師が答えをもっていて、それにあてはめさせるような問いや活動をし、子どもからその答えが出たら良しとするというような指導パターンにおちいってませんか、というようなことだったかと思います。このあたりについて、それぞれのカリスマから、課題解決の方策を伺えればと思います。



<坪田教授 課題解決の方策>

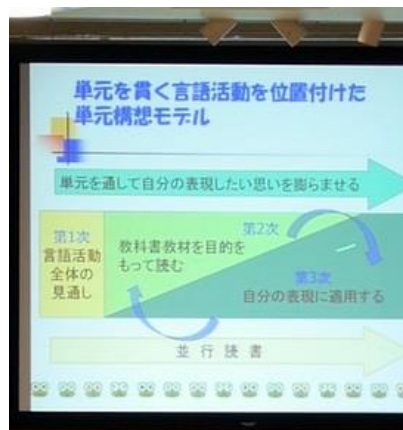
算数の場合、1つの問いに対して、解き方がいろいろあるという先生方の柔軟な構えが大切だと思います。そこを先生が常に心がけた授業をしていると、子どもたちは、友達のいろいろな考えを聞いてみようという心もちになる。解き方がいろいろと同様に、答えや問題もいろいろ広がると考えたらもっと面白い世界が生まれます。九九の表、カレンダー、文字盤などからいろいろな決まりを見つけるのも柔軟な思考を促す1つの方法です。先生方が柔軟な感性をもち、教材研究・開発をしたり、子どもたちの発言を受け止めたりしていくことが、授業改善の1つの方策ではないでしょうか。



<水戸部調査官 課題解決の方策>

具体的な手立てとしては、導入が重要になってきます。例えば学習のゴールを、先生が作ったモデルで示して、子どもに見通しをもたせながら単元全体を進めていくという手があります。このとき、気をつけなければいけないのが教科書教材の扱い方です。本時のめあてを示すときに学習のゴールを常にそばに表記して、何のためにその本時の学習をするのか、どこに向かっていくのかを児童自身に意識させる方法があります。

また、単元を貫く言語活動をする上で大切なのは、“活動だけあって学びがない”ものにしないように、子どもにつけたい力(指導事項)を意識した言語活動を工夫することです。



<↓会場の様子>

